

076 ヤイロの娘とイエスの服に触れる女(1)

マルコによる福音書 5 : 21~34

(マルコによる福音書 5 : 21~43、マタイによる福音書 9 : 18~26、ルカによる福音書 8 : 40~56)

21 イエスが舟に乗って再び向こう岸 (→カファルナウム付近) に渡られると、大勢の群衆がそばに集まって来た。イエスは湖のほとり (→新改訳：海辺) におられた。22 (ユダヤ人会堂—シュナゴグ：ギリシア語—で集会や礼拝の準備を取り仕切り、長老の立場にある) 会堂長の一人でヤイロという名の人に来て、イエスを見ると足もとにひれ伏して (→平伏して)、23 しきりに願った。

「わたしの幼い娘 (→ルカ 8 : 42=十二歳ぐらいの一人娘) が死にそうです。どうか、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、娘は助かり (→文字どおりには、救われ)、生きるでしょう。」

24 そこで、イエスは (ヤイロの信仰を見て) ヤイロと一緒に出かけに行かれた。大勢の群衆も、イエスに従い、押し迫って来た。

・・・・・・以下で、ヤイロの信仰が試され、信仰が励まされ、祝福が与えられている・・・・・・
計画を立てることはよいことであるが、中断や妨害にもフレキシブル flexible でなければならない。

25 さて、ここに十二年間も出血の止まらない女がいた。26 多くの医者にかかって、ひどく苦しめられ、全財産を使い果たしても何の役にも立たず、ますます悪くなるだけであった。27 イエスのことを聞いて、群衆の中に (こっそりと) 紛れ込み、後ろからイエスの服 (の房←ルカ 8 : 44) に触れた。

→身にまとう衣服の四隅には房を付けねばならない (申命記 22 : 12)。



28 「(イエスのしるしのうわさを聞いていたので) この方の服にでも触ればいやしていただける」と思ったからである。

29 すると、すぐ出血が全く止まって病気がいやされたことを体を感じた。

30 イエスは、自分の内から力が出て行ったことに気づいて、群衆の中で振り返り、(誰が服にさわったかは知っていたが) 「わたしの服に触れたのはだれか」と言われた。

31 そこで、弟子たちは言った。「群衆があなたに押し迫っているのがお分かりでしょう。それなのに、『だれがわたしに触れたのか』とおっしゃるのですか。』

32 しかし、イエスは、触れた者を見つけようと、辺りを見回しておられた。

33 女は自分の身に起こったことを知って恐ろしくなり、震えながら (→新改訳：恐れおののき→恐れは内面のもの、おののきは外面的に表れたもの) 進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話した。

→女は密かにこの場から去ろうとしていたが、公に証しをしたことで、より一層の平安を得た。

34 イエスは言われた。

「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らさなさい。」

【参考】手を置いて

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 12 / 聖句等の総数 33250 (手を置いて)12個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 手を置いて]
S マタイによる福音書	9:18 イエスがこのようなことを話しておられると、ある指導者がそばに来て、ひれ伏して言った。「わたしの娘がたったいま死にました。でも、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、生き返るでしょう。」	
S マタイによる福音書	19:13 そのとき、イエスに手を置いて祈っていただくために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。	
S マタイによる福音書	19:15 そして、子供たちに手を置いてから、そこを立ち去られた。	
S マルコによる福音書	5:23 しきりに願った。「わたしの幼い娘が死にそうです。どうか、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、娘は助かり、生きるでしょう。」	
S マルコによる福音書	6:5 そこでは、ごくわずかの病人に手を置いていやされただけで、そのほかは何も奇跡を行うことがおできにならなかった。	
S マルコによる福音書	7:32 人々は耳が聞こえず舌の回らない人を連れて来て、その上に手を置いてくださるようにと願った。	
S マルコによる福音書	10:16 そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。	
S ルカによる福音書	4:40 日が暮れると、いろいろな病気で苦しむ者を抱えている人が皆、病人たちをイエスのもとに連れて来た。イエスはその一人一人に手を置いていやされた。	
S 使徒言行録	9:17 そこで、アナニアは出かけて行ってユダの家に入り、サウロの上に手を置いて言った。「兄弟サウル、あなたがここへ来る途中に現れてくださった主イエスは、あなたが元どおり目が見えるようになり、また、聖霊で満たされるようにと、わたしをお遣わしになったのです。」	
S 使徒言行録	13:3 そこで、彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いて出発させた。	
S 使徒言行録	28:8 ときに、プブリウスの父親が熱病と下痢で床についていたので、パウロはその家に行って祈り、手を置いていやした。	
S テモテへの手紙 I	5:22 性急にだれにでも手を置いてはなりません。他人の罪に加わってもなりません。いつも潔白でいなさい。	